



コタンメール 49号

平成 21 年 12 月 1 日 発行



【企画展】「アコラシノッ(アイヌの芸能)」



11 月 28 日より開催中！！



クイエオルシペ ヌ ワ エンコレ！ (私の語りを聞いて下さい)

当館で研修中の、アイヌ文化担い手育成事業受講者が、アイヌ語の学習成果を発表するため、11月7日、北海道大学でアイヌ文化振興・研究推進機構が主催する

イタカンロー（アイヌ語弁論大会）に出場し、オйнаやカムイユカラを口演しました。

研修生は6名全員が初出場で、壇上に上がる前から緊張していましたが、語るうちに場になれて堂々と口演していました。全員の発表が終わりみんなほっと安心。練習の成果が発揮され、大健闘でした。

平成9年の第一回開催以来最多の50名の出場者数だった今大会での、それぞれ熱のこもった口演に来場者は聞き入っていました。新設されたアイヌ語指導者・研究者による口演の部での出場者の中には、「千の風になって」や「プカプカ」をアイヌ語に訳した歌詞で歌い、軽快な歌と動きに会場が湧きました。

出場した研修生6名のうち、ゆっくり、そしてはっきりと、皆に話をするように口演したことが評価された佐藤京子さんが、見事優秀賞を受賞しました。また、山田美郷さんが、息子さんの敏郎君と親子で口演したことは、親から子どもへという、文化の自然な伝わり方を実践したこととして、審査員の藤村久和氏から特に好評を得ました。

今回の出場の経験は研修生にいっそう自信をもたらしたようで、「次回の大会にも出ようかな」とのたのもしい感想も聞かれました。

(きだみずえ)



口演中の山田さん親子



優秀賞を受ける佐藤さん



講師の話にメモを取りながら熱心に学習する受講者



ムックル製作



アイヌの有用植物観察会

アイヌ文化を多くの人々に理解してもらうための指導者を育てる事業「体験交流事業指導者育成講座」（三年度目）が、11月からスタートしました。講座内容はアイヌ民族の歴史や文化ですが、講義だけではなく、自ら、伝統楽器ムックル（口琴）の製作・演奏、ゴザ編みなどの実技や、野外に出て、薬にしたり道具を作ったりする植物の見分け方を体験します。

受講生13名には、4ヶ月間という短い期間のなかで多くのことを吸収しようという意気込みが感じられました。（きだみずえ）

メタボックルに聞こう

Q：メタボックルさん、イランカラブテ。今日は…

メ：ふえ、ふえ…えしッ！！ああ。

Q：おやおや、すごくしゃみですね。風邪ですか？

メ：やいや、先週から…えしッ！！ああ。オムケカラ（風邪をひく）して…えしッ！！なおらないルウェネ。エシナ（くしゃみ）ばかりして。オムケ（せき）は、あんまりクオムケカソモキコロカ（せきはしないけども）。…えしッ！！ああ。

Q：気を付けてくださいね。熱はないでしょうね。なにかいい薬はないんですか。

メ：薬草ていえば、やっぱりエント（ナギナタコウジュ）でしょ。ウセイ（お茶）にして飲めば、ピリカ ルウェネ。プクサ（ギョウジャニンニク）を鍋で炊いて湯気を吸うとか…えしッ！！。

Q：おやおや、お大事にしてください。メタボックルさん、イライライケレ。



メタボックル：身長 50mm 腹囲？ 出身？ 年齢？
行きつけスポット ラーメン「ヌプリ」